

【アメリカ】 アーヴィズ米国務副次官補の証言

- * 2008年6月12日、米下院国際問題委員会のアジア・太平洋及びグローバル環境小委員会において、アレクサンダー・アーヴィズ(Alexander A. Arvizu)国務副次官補(東アジア及び太平洋問題担当)が「米日関係: パートナーシップ及び進展(U.S.-Japan Relations: Partnership and Progress)」と題する証言を行い、日米関係の現状と展望を概観した。以下はその要約である。

日本の国内政治—ねじれ国会

アーヴィズ副次官補は、日米安全保障条約50周年を目前に控えた両国の関係が益々重要になっているという説明の後、日本のねじれ国会の話題をまず取り上げ、それが国政に及ぼす影響について紹介している。参院での否決を衆院で覆すことは技術的には可能でありながら、福田政権がそのような戦術を用いることは実際には厳しい制約があると語った。しかし、民主党も国政担当能力を備えていることを国民に示したいと望むのであれば、立法を妨害するのではなく、譲歩を行う余地と動機があると所感を述べた。国際的及び国内的に重要な幅広い問題において前進するが、時折、行為の根拠が以前より明白でなくなっていることも指摘している。

日米の安全保障及び経済関係

1960年に現行の日米安保条約が調印された後、戦略的な関係は、同条約が米国にとっては太平洋における安全保障政策の基軸、日本にとっては国家安全保障政策の根幹をなすものへと発展したと述べ、その発展、変容の具体例をいくつか挙げた。経済関係についても同様に、両国の相互に寄与しあう関係について触れ、その具体例を挙げている。しかしながら、両国が貿易と投資を拡大させる努力が必要であると述べ、日本がドーハ開発ラウンド交渉において市場アクセスに関する重要な関与を行うことを要求した。

グローバルな問題群

日米両国のパートナーシップが世界中にもたらす影響力は次第に増している。イラクやアフガニスタンにおけるテロとの戦いへの日本の貢献を列挙し、謝意を表した。他にも、世界中の自然災害に対する日本の支援について紹介した。これらは、国際的な安全保障の分野における日本の役割の増加を示すものであり、世界の国々も引き続きそのような日本の役割を歓迎していると述べた。最後に、G8の議題にも触れた。

参考文献(インターネット情報はすべて2008年6月18日現在である。)

- ・米下院国際関係委員会、アジア・太平洋・グローバル環境小委員会における証言のドキュメント
<<http://foreignaffairs.house.gov/110/arv061208.htm>>

(高木綾・海外立法情報課)